

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	古事記伝稿本の研究—訓読を中心にして—	
所属	人文学部	人文学科
氏名	千葉真也	
【概要】	<p>本居宣長の代表的な著作である『古事記伝』は、『古事記』研究において、現在でも常に参照される。</p> <p>『古事記伝』には、刊本以外に自筆の初稿(「草稿本」と清書稿(「再稿本」とか「浄書再稿本」と呼ばれる)の2種類の稿本が現存する。また再稿本成立後、全巻が刊行される以前に宣長の学問を敬慕する何人かの知人門人が再稿本を筆写した写本も残っている。これらの稿本類は宣長の学問形成の道筋を示す資料である。再稿本については、戦前から研究が蓄積されてきた。千葉は、これまで再稿本の加筆訂正を吟味することによって、いくつかの巻の成立年次を推定した。</p> <p>しかし、最初の原稿である草稿本については、ほとんど研究が行われていない。千葉は数年前から草稿本の解読に着手し、草稿本の仮名遣いが寛政10年執筆の最終巻にいたるまで、宣長が部分的に定家仮名遣いを用いていることを確認した。現在は古事記伝の初稿と清書稿における訓読の差異を比較している。訓読は古事記研究の出発点であると同時に終着点である。純粋な日本語を古事記に求めた本居宣長においては、なおさらである。従来、そのような研究が十分に行われていないこともあって、当面は訓読そのものの研究を行いたい。</p>	
キーワード	古事記、本居宣長、古事記伝、国学	